

平成 20 年度実施

第 1 回深谷市環境エコ川柳優秀作品一覧

< 1 席 >

ママチャリに家計簿のせるエコライフ (りい子)

< 2 席 >

四季の^{いろ}彩守りたいからエコロジー (杉渕綾子)

ケチじゃないこれもりっぱなエコライフ (斉藤光子)

< 3 席 >

今日からは愛車に詫びてバス通勤 (上田英司)

百歳の^{はは}姑に学んでエコ暮らし (荻原文子)

分別も慣れれば脳の活性化 (丸山洋子)

エゴと言う大横綱に挑むエコ (亀井保明)

充分に役目を果たしたあとがゴミ (橋本テル子)

審査員 深谷市瀬山・てじま晩秋

深谷市東方・酒井 青二

まずは、ご応募くださいました市民の皆様方々に感謝申し上げます。

今回のテーマ「環境エコ」は我が国だけの問題だけではなく、地球全体として考えていかなければならないことです。

審査に当たり、二つの基準を頭に置いて採点をしました。

一つは作者がどのように「環境エコ」に係わり、取り組んでいるか。

もう一つは作品の完成度(思いが、17音字に収まっているか)はどうか。です。

入選に漏れた作品の中にも、もう少し推敲を重ねると、佳句になったのもありました。また、標語、格言的な作品も数句ありました。

川柳の三要素は「^{うが}穿ち」「^{こっけい}滑稽」(ユーモア)「^よ軽み」です。

一席「ママチャリ」の句

通常なら自転車には、人や物を載せるのが普通ですが、作者は家計簿をのせると言っています。(実際は、家計簿をのせてはなく、ママの頭の中にインプットしている)これが川柳なのです。小市民の日々のエコの暮らしが見えます。

二席「四季」の句

エコに対する作者の前向きな姿が^{ほうふつ}彷彿され、好感を持ちました。リズムも言葉の色合いも、とても良いです。一つ気を付けて戴きたいのは、中七の「守りたいから」の「から」は説明的になってしまいますから注意して下さい。

二席「ケチじゃない」の句

ケチじゃないと言い切った^{ところ}処に作者の意志の強さを感じます。物を大切にすること、使う事、また再利用する事もエコの一つ、更なる「環境エコ」を期待します。

「バス通勤」の句

何か私にも出来ることがないかと、思い立ったのがバス通勤。決意のほどが伺われます。 - 実は、この句は審査の中で、二席に推薦したいと言う声もありました。しかし、下五の「バス通勤」が六音字の字余りなのです。内容もリズムも良いし、落とすのに忍びがたい事を考慮し、三席に推薦しました。 今後の作句に生かして下さい。

「エコ暮らし」の句

嫁姑問題の多い昨今、実に好感の持てる句です。審査員一同、おばあちゃんにもお嫁さんにも大きな花マルを上げたいと思います。百歳バンザイ、お嫁さんバンザイ。

「脳の活性化」の句

昔では考えられないゴミ収集。燃えるゴミ、燃えないゴミ、生ゴミ、粗大ゴミ、そして危険物等々、分別にも労力がある。それらを脳の活性化に繋げたところに作者の川柳間がある。エコにも老化防止にも役立ててください。

「大横綱」の句

この句を見て、ズバリ理解できる人は少ないと思います。中七の「大横綱」と上五、下五の関連が判り難いからだだと思います。例えば「大横綱」を得体の知れないモンスターに置き換えてみて下さい。エゴイストな人間とそうでない人間との戦い。勿論、相手はモンスター。一人一人が力を合わせなければ、勝てる筈がありません。「闘う庶民」の姿が見えて頼もしい。

「役目を果たした」の句

この句は読んでその通りの句です。選者の余計な説明や解釈は不要です。物を粗末にしないこと、大切にすることなど自分にも言い聞かせてます。欲を言えば下五の「あとがゴミ」の「あと」をもう一工夫すると、もっとよい句になるでしょう。

結びに「環境エコ川柳」が暮らしの中に根付くことを審査員一同、願っております。

選者の句

母ゆずり妻の綺麗なエコマーク

てじま晩秋

環境にとっても優しい再生紙

酒井 青二